はじめに

本講義はあらゆるレベルの大学に合格することを目標とする講座です。

直前期の現代文の勉強で重要なのは、「今まで習ったことができるようになっているかを確認すること」です。習っていないことは本番ではできません。今まで考えたことがないものが、本番で考えられるわけもありません。

そこで、直前期では

①「読解法」

②「設問解法」

という2点を重点的に確認していくことになります。

本講義では過去問を用いて、今まで学んできた「読解法」と「設問解法」が使えるものになっているか、最終チェックを行います。ですから、「できるからやらなくても良い」とは考えないでください。「できるようになったことを再確認する」というつもりで、臨んでください。

この冬、みなさんの頭脳に革命を起こしてみせます。

本講義の現代文の考え方

本講義は文章を従来の「意味論」だけでなく「統語論」の側面からも解説していきます。もちろん文章には「意味」があります。しかし、「意味」というのは読者の側に生成される主観的なものでもあります。ですから、「意味」ばかりを追求していくと、「読者によって意味が異なる」ということが起こり得るのです。

一方、大学入試の問題はたとえ最高峰の記述問題であろうとも、「読者によって解答が異なる」ということはありません。そこには客観的に正しい答えがあって、その答えや答えに至るプロセスがいかなるものかによって点数がつけられます。であれば、言語の客観性である「統語論」的側面を無視することはできません。言語の「統語論」的側面とは以下の三つです。

① 文法
② 構文
③ 論理

たとえば、①文法ですが、筆者によって副助詞の「も」の使い方が異なるということはあり得ません。また、読者によって副助詞の「も」の機能が異なって受け取られるということもあり得ません。副助詞の「も」は、たとえどんな筆者であろうと、どんな読者であろうと、客観的に機能します。

また、②構文ですが、本講義では「主語―述語」の関係や、「修飾語―被修飾語」の関係や、「接続語―被接続語」の関係からなる文構造のことを構文と呼びます。この構文に関しても、文法と同様のことが言えます。読者によって「文の主語―述語が異なる」ということはありません。構文もまた、どんな筆者であろうと、どんな読者であろうと、客観的に機能します。

最後に、③論理ですが、ここが本講義の最大の特徴です。①文法や②構文は「日本語」という言葉のルールです。それに対

し、③論理は「日本語」だけにとどまりません。あらゆる言語に及ぶ最も普遍的なルールといってよいでしょう。数式が世界共通の言葉であるように、論理もまた世界共通の普遍的ルールなのです。本講義では論理を以下の「4つの言葉のルール」と「4つの言葉の使い方」とします。

- **「でない」という否定**
- **「かつ」という連言**
- **「または」という選言**
- **「ならば」という条件法**

以上の4つの言葉のルールを駆使して筆者は文を書きます。ですから、読者も4つの言葉のルールを理解して読まなければなりません。本講義ではその「ルール」と「方法」を伝えます。

さあ、最先端の現代文講義の開講です。

柳生　好之

受講の際の注意点　効果的な講義の利用法

最高の講義を用意しましたが、ただ映像を見るだけでは力はつきません。効果的に学習するためにも、この利用法を実践してください。

Ⅰ　予習について

本文を通読し、「設問」や「傍線部」を確認してから、「解答の根拠」を本文中に求めてください。最後に、本文中の解答の根拠をもとにして設問に解答してください。

冬期講習では１００％を目標として解答してください。その際、「解答の根拠とした文」に線を引いておいてください。この作業を予習の段階でしておくことで、講義に集中できる仕組みになっています。

予習ポイント　問題を解く。解答の根拠をメモしておく。

Ⅱ　講義について

映像授業を受講している間は、メモを取らないでください。

ただ見たことをノートに写す、あるいは聞いたことをその場でメモに書くというのは、「頭の中には何も残っていない」状態になりやすいのです。ですから、「復習タイム」に講義のポイントを思い出しながらメモを取ってください。あくまでも「一度頭の中に置いた」上で、「頭の中から取り出す」という作業を怠らないでください。この作業が「文章を読み、解答を書く」という現代文の解答プロセスのトレーニングになるのです。**ただし、本文に線を引くのは構いません。**

講義ポイント

講義中はメモを取らない。説明や図は講義後ノートに書く。

Ⅲ　復習について

よく「現代文は復習しなくてもよい」という意見を聞きます。しかし、そもそも「復習しなくてよい」なら、復習して覚えるべきポイントがない「授業」も受ける必要がないでしょう。受験生の貴重な時間をいただくわけですから、本講義は「復習ポイント」も用意してあります。

「復習ポイント」をしっかり覚えてください。これは現代文を分析する上で必要になる考え方です。

復習ポイント　**復習ポイントを覚える。解答を書き直す。**

現代文 ファイナルチェック＜読解法＞目次

第一講　傍線部内容説明問題解法……p.8
第二講　傍線部理由説明問題解法……p.28
第三講　空所補充問題解法……p.36
第四講　総合問題解法……p.46

第一講　傍線部内容説明問題解法　35分

傍線部説明問題　LEVEL 1

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

あるとき、その評議員会が終わって、昼食をしながら一同歓談ということになった。メンバーは、言語、文章、国語などの権威者ばかりである。

ひとりの声の大きな評議員が、

「ワープロを始めたのですが、使い方がわからず往生しました。もちろんマニュアルはついているのですが、これが役に立たないのです。いくら読んでも、さっぱりわからない。しまいには腹が立ってきました」

と言うと、それが口火になって、ほかの人たちが、そうだ、そうだ、と相槌をうつ。同じような思いをしていたのであろう。はじめの評議員が、

「技術者は技術にはもちろん詳しいでしょうが、文章の書き方を知らないのです。自分たちにわかっているから、一応のことを説明すればわかると思っているのでしょう。正しく、わかるように書くことを教えないといけません。ああいうマニュアルは欠陥品です」

とやる。それにつづいて、理科系の人がいかにことばを粗末にするか、文章の書けないのが多いか、などがこもごも話し合われ、ついには国語教育の不備というところに落ち着いた。

　十数名の評議員のだれひとり、マニュアルがわからないのは、読む側に読む力がないからである、と言った人はいない。みんな、マニュアルを書いた技術者の悪文、不親切な表現のせいにしたのである。ことばについて一家言どころか、専門家としての見識と教養をもっているひとたちである。まさか、自分たちに読めない文章があるとは思わない。読めなければ、書いた方が悪い。文章が文章でないからだ。そう考える。

（外山滋比古『読みの整理学』）

問　傍線部「そう考える」とあるが、その具体的な内容を説明したものとして、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

① ことばの専門家たちは、マニュアルがわからないのは読む側に読む力がないからだと考えること。
② マニュアルがわかりづらいのは理科系の人の表現力が乏しく、国語教育の不備だと考えること。
③ ワープロの使用者は、熟達するまでマニュアルを何度でも読み返すことが必要だと考えること。
④ ことばの専門家たちは、自分たちに読めない文章があれば、それは書いた方が悪いと考えること。
⑤ 自分のわかっていることを人に伝えるには、読む側に立った文章を書く必要があると考えること。

傍線部説明問題　LEVEL 2

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

われわれの存在は、身体表面の様態を少し変更するだけで、たちまち大きくぶれてしまう。もちろん、われわれは毎日このような激しい揺れを自分に強いているわけではない。むしろある意味の枠のなかに、自分を適度に閉じ込め、適度に脱落させている。化粧、それは、われわれが試みる《小さな狂気》の体験である（「狂気」は、フランス語の d 鶩駭 ager という言葉をまねて、「人格の引っ越し」と表現することもできる）。化粧は顔の造作をなぞり、強調する、つまり顔のゲシュタルトにアクセントをつけるのであって、顔の造作を無視したり否定したりするのではない。ナチュラル・メイクという言葉も示しているように、現代の化粧は自然を否定するのではない。自然を規範としながら、しかも自然を可能なかぎり変形する。

したがって、化粧のこつは、自然を装いながら、しかも装っているという事実を完全には隠さないところにある。自然からのぶれとしての化粧、それはいつも、自然からの逸脱へと、つまりは別の存在可能性へとわれわれを誘いこみながら、しかも帰路を断つことはないのである。

（鷲田清一『最後のモード』）

問　傍線部「しかも帰路を断つことはないのである」とあるが、それはどういうことか、その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

1　わたしが本来のわたしに戻ることは、いつでも可能だということ。
2　わたしと他者の関係が、絶え間なく変化しつづけていくということ。
3　わたしの身体に固有な言語が、顔の不在によって、回復するということ。
4　他者の存在への興味が、いっそう強まるということ。
5　わたしと他者の間の鏡のような関係が、なくなることはないということ。

傍線部説明問題　LEVEL 3

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

若い落語家の生活を描いた「の・ようなもの」という映画を見た。「昔みたい」というアメリカ映画も上映されている。映画や小説のタイトルが、同時代の気分を反映していることがあるが、最近の世のなかには「のようなもの」「みたいなもの」が数多くあるように思われる。

今年（一九八一年）二月二十四日付の新聞朝刊に載った「笑いはどこへ行く」という討論のなかで、榎本了壱（えのもとりょういち）氏は次のように発言している。「最近ぼくたちの間でも、何々のようなものという、限定されない、しかし非常に何かに近いものっていうような表記の仕方がはやっている。つか（こうへい）さんの芝居にしても、演劇のようなものではないか。あるいは、新しい漫才といわれているのも、漫才のようなものではないかな」。本物の影が薄くなって、「のようなもの」がだんだん勢力を大きくしているらしい。

「演劇のようなもの」には、それなりの面白さがあるかもしれないが、「大学のようなもの」では、学生は勉強しないし、「教授のようなもの」が裏

口入学の仲介をし、「結婚のようなもの」をするひとがすぐに離婚する。

（宇波彰『のようなものの世界』）

問　傍線部「『演劇のようなもの』には、それなりの面白さがあるかもしれないが、」とあるが、前後の文脈をふまえると、「それなりの面白さ」とはどのようなことだと考えられるか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 新しい漫才の考え方にたって演劇と全く違ったやり方をしているところ。
② 面白さなどどこにもないという点が皮肉な意味で「面白い」というところ。
③ 本物の演劇のいわばミニチュア版として、本物と全く同じ演劇の醍醐（だいご）味を味わえるところ。
④ 従来の演劇の基本スタイルにあまりに忠実で、教科書的なきまじめさが感じられるところ。
⑤ 従来の演劇のあり方を踏まえてはいるが、既成の概念に縛られない自由な試みがあるところ。

傍線部説明問題　LEVEL 4

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ここで述べておきたいのは、「祭り」のなかで「仮面」をつけ、「扮装」した人びとが、そして「仮面」や「扮装」をしていない人びとも、ともに「祭り」のもつ「普遍的無礼講」という非日常的時・空間のなかで、「他者」として自己の「素顔」を表出していたということであり、それが彼らの日常と深く結びついていたということで、近代スポーツはこのような日常との結びつきを断ち切ることによって成立したということである。それは、スポーツ空間を「空地」（それは農地の一部でもあった）から「校庭」やクラブ所有の「グラウンド」へ移行させるということ、フットボールをしたいと思う「時」にいつでもできる自由な余暇時間を豊富に所有するということ、必要な費用を十分に支出できるということなどを背景になしえたことであり、さらに統一ルールをつくる、ユニフォームを揃えるということなども含む総合的で壮大な文化変革運動であった。やがてこのような条件のもとで、勝敗の争いだけを目的とする（アスレティシズム）競技会が開かれるようになり、競技会という「祭り」のもつ非日常性がそこで完成

する。それは囲い込みや食糧高騰に対してはもちろんのこと、人類滅亡の危機さえはらむ核爆弾製造競争への抗議手段ともなりえないほどの〈非日常的生活〉のものとなっているのである。

（中村敏雄『オフサイドはなぜ反則か』）

問　傍線部「「他者」として自己の「素顔」を表出していた」の説明として最も適切なものを次のイ〜ニの中から一つ選び、解答欄に記入せよ。

イ　どのような「仮面」や「扮装」を選ぶかでその人の個性があらわになっていたということ。

ロ　「仮面」をつけても、なるべく自分の「素顔」に近い形で「扮装」をしていたということ。

ハ　普段とは全く異なった「他者」としての自分を演じ、祝祭的気分を味わっていたということ。

ニ　「仮面」を用いて「他者」のふりをしながら、社会への抵抗・抗議の意を表していたということ。

傍線部説明問題　LEVEL 5

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「けっこうです」という言葉は頭が痛い。<u>高文脈言語</u>である日本語を象徴する言葉である。文脈を理解していないと、「イエス」か「ノー」かわからないのである。日本人でも文脈が微妙で、どちらかわからないことさえある。最近の若者の間で、この「けっこうです」に代わる言葉のひとつに、「ビミョー」があろう。明確な判断を避けているとの批判もあるが、若者たちの間では、共有している文脈のなかで、最近はとくに否定的な意見や感想をできるだけ述べたくないので、推し量れという高文脈言語として使われている。まさに微妙なのである。

（小笠原泰『なんとなく、日本人』）

問　傍線部「高文脈言語」とはどういうことか。最も適切なものを、次のア〜オの中から一つ選び、解答欄に記入せよ。

ア　文脈から高レベルに孤立した言語
イ　所属する小集団が意味を決める言語
ウ　その場の状況から微妙にはずれた言語
エ　状況によって意味が逆に変化する言語
オ　その場の空気によって意味が左右されやすい言語

傍線部説明問題　LEVEL 6

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

　不安であるとは、[1]自己の意識のうちに分裂がひそんでいるということである。もし私が事物存在や道具存在と同じようなありかたで存在するならば、私は自己について意識するということはありえないであろう。私が何かについて意識するということそのこと、つまり[2]「について」が私の意識の本質に属しているということそのことが、そもそも分裂のはじまりであり、したがって不安のみなもとである。不安あるいは心配は、私と私とのあいだに距離があることであり、私が私のかなたにいることである。たとえば、あした私は約束の場所であの人に会うことができるだろうかどうだろうか、ということは、現在の私と、企てられたあしたの私とのあいだの分裂であり、この分裂が不安を生むのである。したがって、不安なのは、私があの人に会えるかどうかということではなく、[3]かなたに投げ企てられた私自身に、私がふたたび出会うことができるかどうかということである。恐怖は対象的な何ものかについておこるが、[4]不安は自己のまえにおこる。

もし私が事物存在と同様に、ただ、あるところのものであり、なるようにしかならないならば、そこには、恐怖は生じるかもしれないが、不安は生じないであろう。不安は、かなたに投げ企てられた私自身と、現に投げ企てる私とのあいだの分裂から生じる。かりに私が何か著作なり事業なりを企てたとしよう。この著作、この事業は、いまだあらぬものであるが、そのためについやす私の努力と私の生活は、現にあるところのものである。企てるとは、いまだあらぬ将来へ向かって、現にあるこの自己を投げかけることである。しかし私の企てているこの著作の完成、この事業の成功は、なるがままに放っておいて必然的に到達できるような目的地ではない。かなたの私と、現にある私とのあいだをへだてているものは、私の自由である。私は自由にこの企てを放棄することもできるし、自由にこの企てを変更することもできる。[5]そこには私の自由のほかに何の支えもないということが、私の不安にほかならない。

（松浪信三郎『「哲学そのもの」でない哲学』）

問一　傍線部１「自己の意識のうちに分裂がひそんでいる」の意味としてもっとも適切なものを一つ選べ。

a　自己が事物や道具ではない存在であることを意識する。
b　意識する自己と意識される事物や道具とに差異がある。
c　対象的な自己とそれを意識する自己とに差異がある。
d　意識する自己ではない事物を無意識のうちに意識する。

問二　傍線部２「「について」が私の意識の本質に属している」の説明としてもっとも適切なものを一つ選べ。

a　意識は何かについての意識であるかぎりつねに自己についての意識となる。
b　意識は私がその意識を意識するかぎりつねに自己についての意識となる。
c　意識はそれが私のもつ意識であるかぎりつねに何かについての意識である。
d　意識はどんな存在のありかたにおいてもつねに何かについての意識である。

問三　傍線部３「かなたに投げ企てられた私自身」の意味としてもっとも適切なものを一つ選べ。

ａ　将来に実現することが要請されている私自身の目的。
ｂ　将来に実現が想定される私自身の存在のありかた。
ｃ　将来に実現したいと願っている私自身の自由。
ｄ　将来に実現を企てている私自身の夢や理想。

問四　傍線部４「不安は自己のまえにおこる」の説明としてもっとも適切なものを一つ選べ。

ａ　不安はつねに私自身の意識の中において生じるということ。
ｂ　不安はつねに私自身の未来の世界について生じるということ。
ｃ　不安は私が意識している対象的な存在について生じるということ。
ｄ　不安は対象としての私を意識する私の側に生じるということ。

問五　傍線部５の主張の説明としてもっとも適切なものを一つ選べ。

a　将来の自分と現在の自分とを区別する仕方は、すべて私の自由に任されているので不安になる。

b　将来の自分についてそもそも考えるか考えないかは、私の自由に任されているので不安になる。

c　将来の自分について考えていく場合に、努力の目的は私の自由に任されているので不安になる。

d　将来の自分のありかたをどのように企てるかは、すべて私の自由に任されているので不安になる。

レベル1

レベル2

レベル3

レベル4

レベル5

レベル6

問1

問2

問3

問4

問5

模範解答

第一講　模範解答

レベル1	④
レベル2	1
レベル3	⑤
レベル4	ハ
レベル5	オ

レベル6

問1	c
問2	c
問3	b
問4	d
問5	d